

年企発0512第1号  
平成28年5月12日

地方厚生（支）局保険年金（企業年金）課長 殿

厚生労働省年金局企業年金国民年金基金課長  
（公印省略）

平成28年熊本地震による災害に対する「特定非常災害の被害者の権利利益の保全等を図るための特別措置に関する法律」の企業年金制度等への適用について

平成28年熊本地震による災害に対しては、平成二十八年熊本地震による災害についての特定非常災害及びこれに対し適用すべき措置の指定に関する政令（平成28年政令第213号。以下「政令」という。）が別添1のとおり平成28年5月2日に公布され、同日より施行されたことにより、特定非常災害の被害者の権利利益の保全等を図るための特別措置法に関する法律（平成8年法律第85号。以下「法」という。）（別添2）の規定の一部が適用されることとなったところである。

政令は、平成28年熊本地震による災害を法第2条第1項の特定非常災害に指定し、その被害者について、法令上の義務であって期限内に履行されなかった義務の履行に係る免責等に関して所要の措置を講ずるものである。

主な内容等は下記のとおりであるので、厚生年金基金等について、災害の影響等を十分に配慮し、企業年金制度等（厚生年金基金制度、確定給付企業年金制度、確定拠出年金制度及び国民年金基金制度をいう。）について、適切な運用が図られるよう、遺漏なきを期されたい。

## 記

法第4条に定める法令上の義務者であって期限内に履行されなかった義務の履行に係る免責に関する措置については、以下のように取り扱われたい。

- (1) 法令に規定されている義務のうち、平成28年4月14日から平成28年7月28日までの間に履行期限が到来するものであって、特定非常災害により当該期限までに履行されなかったことにより、法令義務違反として、罰金等の刑事上、行政上の責任が問われる場合において、平成28年7月29日までに義務が履行されたときには、免責することとしたこと。
- (2) 法第4条第1項の「法令に規定されている」とは、法令に基づき直接課せられ

る義務を対象とするものであり、例えば、確定給付企業年金法（平成13年法律第50号）第102条第1項に基づき履行期限の定められていない条項について違反の改善の措置を命じる場合のように、法令に基づく処分であって初めて具体的に履行期限を定めて義務が課せられることとなるもの等は含まないものであること。（「参考」を参照のこと）

- (3) 法第4条第1項及び政令第1条によって規定される「平成28年熊本地震による災害により当該履行期限が到来するまでに履行されなかった」とは、履行義務者ごとに個別に判断することとなるが、一般的には、直接・間接を問わず特定非常災害により被害を受けたか否か、すなわち、履行義務者が当該義務の履行ができなかったか否かによって判断されること。
- (4) 当該措置の対象となるのは、「行政上及び刑事上の責任」であるので、民事上の責任については免責の対象とならないものであること。

平成二十八年熊本地震による災害についての特定非常災害及びこれに対し適用すべき措置の指定に関する政令をここに公布する。

御 名 御 璽

平成二十八年五月二日

内閣総理大臣臨時代理  
国務大臣 菅 義偉

## 政令第二百十三号

平成二十八年熊本地震による災害についての特定非常災害及びこれに対し適用すべき措置の指定に関する政令

内閣は、特定非常災害の被害者の権利利益の保全等を図るための特別措置に関する法律（平成八年法律第八十五号）第二条第一項及び第二項前段、第三条第一項、第四条第一項、第五条第一項並びに第六条の規定に基づき、この政令を制定する。

## （特定非常災害の指定）

第一条 特定非常災害の被害者の権利利益の保全等を図るための特別措置に関する法律（以下「法」という。）第二条第一項の特定非常災害として平成二十八年熊本地震による災害を指定し、同年四月十四日を同項の特定非常災害発生日として定める。

## （特定非常災害に対し適用すべき措置の指定）

第二条 前条の特定非常災害に対し適用すべき措置として法第三条から第六条までに規定する措置を指定する。

## （延長期日）

第三条 第一条の特定非常災害についての法第三条第一項の政令で定める日は、平成二十八年九月三十日とする。

## （免責期限）

第四条 第一条の特定非常災害についての法第四条第一項の政令で定める特定義務の不履行についての免責に係る期限は、平成二十八年七月二十九日とする。

## （法人の破産手続開始の決定の特例に関する措置に係る期日）

第五条 第一条の特定非常災害についての法第五条第一項の政令で定める日は、平成三十年四月十三日とする。

## （相続の承認又は放棄をすべき期間の特例に係る地区及び期日）

第六条 第一条の特定非常災害についての法第六条の政令で定める地区は、熊本県の区域とする。

2 第一条の特定非常災害についての法第六条の政令で定める日は、平成二十八年十二月二十八日とする。

## 附 則

この政令は、公布の日から施行する。

内閣総理大臣臨時代理

国務大臣 菅 義偉

総務大臣 山本 早苗

法務大臣 岩城 光英



- 3 免責期限が定められた後、前二項に定める免責の措置を免責期限が到来する日の翌日以後においても特に経理して実施する必要があると認められるときは、政令で、特定義務の種別となる法令の条項(以下、新たに、当該特定義務が不履行について免責に係る期限を定めることのできる。前項の規定は、この場合について準用する。
- 4 前三項の規定にかかわらず、特定義務が災害その他やむを得ない事由によりその履行期限が到来するまでに履行されなかった場合について他の法令に別段の定めがあるときは、その定めるところによる。
- (債務超過を理由とする法人の破産宣告の特例に関する措置)
- 第五條 特定非常災害によりその財産をもって債務を完済することができなくなった法人に対しては、第二條第一項又は第二項の政令でこの条に定める措置を指定するもの(以下、この条に定める措置を指定するもの)の履行の日以後特定非常災害発生日から起算して二年を超えない範囲内において政令で定める日までの間、破産の宣告をすることができない。ただし、その法人が、清算中である場合、支払をすることができない場合又は破産の申立てをした場合は、この限りでない。
- 2 裁判所は、法人に対して破産の申立てがあった場合において、前項の規定によりその法人に対して破産の宣告をすることができないときは、破産の宣告を確保する決定をしなければならぬ。
- 3 裁判所は、前項の規定に係る法人が支払をすることができなくなったとき、その他同項の決定をすべき第一項に規定する事情について変更があったときは、申立てにより又は職権で、その決定を取り消すことができる。
- 4 前二項の規定による決定に対しては、不服を申し立てることができない。
- 5 民法(明治二十九年法律第八十九号)第七十條第二項(他の法律において準用する場合を含む)の規定は、特定非常災害発生日から第一項に規定する政令で定める日までの間、同項本文の法人については適用しない。(民事調停法による調停の申立ての手取料の特例に関する措置)
- 第六條 特定非常災害により借地権関係その他の民事上の法律関係に著しい混乱を生ずるおそれがある地区として政令で定めるものに特定非

常災害発生日において住所、居所、営業所又は事務所を有していた者が、当該特定非常災害に起因する民事上の紛争につき、特定非常災害発生日以後当該特定非常災害発生日から起算して三年を超えない範囲内において政令で定める日までの間に、民事調停法による調停の申立てをする場合には、民事訴訟費用等に関する法律(昭和四十六年法律第四十号)第三條第一項の規定にかかわらず、その申立ての手取料を納めることを要しない。

(建設基準法による緊急仮設住宅の存続期間の特例に関する措置)

第七條 建設基準法第三十二号の特定行政庁は、同法第八十五條第一項の非常災害又は同条第二項の災害が特定非常災害である場合において、被災者の住宅の確保に足らざるに相当する期間を超えて当該被災者の居住の用に供せられていない緊急仮設建築物である住宅を存続させる必要があり、かつ、安全上、防火上及び衛生上支障がないと認めるときは、同項後段の規定にかかわらず、更に一年を超えない範囲内において同項の許可の期間を延長することができる。当該延長に係る期間が満了した場合において、これを更に延長しようとするときも、同様とする。

附則  
(施行期日等)

- 1 この法律は、公布の日から起算して、次の各号に掲げる規定は、それぞれ当該各号に定める災害について適用する。
  - 一 第一條及び第七條の規定 平成七年一月一日以後に発生した災害
  - 二 第三條から第六條までの規定 平成八年四月一日以後に発生した災害
  - 三 国土庁設置法(昭和四十九年法律第九十八号)第二條第一項(国土庁の設置)の規定 平成八年四月一日以後に発生した災害
- 2 国土庁設置法(昭和四十九年法律第九十八号)の四條中第二十六号を第二十七号とし、第二十五号を第二十六号とし、第二十四号を第二十五号とし、第二十三号の次に次の二号を加える。
  - 二十四 特定非常災害の被害者の権利利益の保全等を図るための特別措置に関する法律(平成八年法律第八十五号)の施行に関する事務を処理すること。
  - 二十五 第七條第一項(第四條第二十四号)を「第七條第二十五号」に改める。

(建設省設置法の一部改正)

建設省設置法(昭和二十三年法律第十三号)の一部を次のように改正する。

第三條第四十五号中「及び建築物の耐震改修の促進に関する法律(平成七年法律第百二十三号)を」と、「建築物の耐震改修の促進に関する法律(平成七年法律第百二十三号)及び特定非常災害の被害者の権利利益の保全等を図るための特別措置に関する法律(平成八年法律第八十五号)に改める。

内閣府 内閣府大臣 橋本龍太郎  
建設大臣 長尾 立平  
建設大臣 中尾 栄一

政 令

公正取引委員会事務局組織令の一部を改正する政令を公布する。

平成八年六月十四日  
内閣府 内閣府大臣 橋本龍太郎  
公正取引委員会事務局組織令の一部を改正する政令

公正取引委員会事務局組織令(昭和二十七年政令第三百七十三号)の一部を次のように改正する。

第一章 総則(第一節)の二に改める。

目次中「部」を「局」に、「経済部」(第十四條)、「第三部」(第十九條)、「第三部」(第二十二條)、「第四部」(第二十三條)、「第五部」(第二十四條)、「第六部」(第二十五條)、「第七部」(第二十六條)、「第八部」(第二十七條)、「第九部」(第二十八條)、「第十部」(第二十九條)、「第十一部」(第三十條)を「第三部 審査局(第二十五條)第三十條」に改める。

「第一節 官房及び部の設置等」を「第一節 官房及び局の設置等」に改める。

第一條を次のように改める。

(官房、局及び部の設置)

第一條 公正取引委員会の事務局に、官房及び次の二局を置く。

経済取引局  
審査局

2 経済取引局に取引部を、審査局に特別審査部を置く。

第二條第一項中「四人」を「二人」に改め、同条第二項中「事務局長」を「事務局長」に、「事務局」を「事務局局」に改める。

第三條第二項中「事務局長」を「事務局長」に、「事務局」を「事務局局」に改める。

第五條第一号中「局内事務」を「事務局局の事務」に改め、同条第四号中「審判の事務」の下に「(私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和二十二年法律第五十四号)以下「独占禁止法」という。第五十一條の二の規定による。公正取引委員会が審判官をして行わせることとした事務を除く。第十條第十二号において同じ)を如く、同条第六号中「その他職務」を「前各号に掲げるもののほか、事務局局の所掌事務で他の所掌」に改める。

第六條(見出しを含む)中「経済部」を「経済取引局」に改め、同条第三号を第五号とし、同条第二号中「請求」の下に「並びに届出、報告及び通知の受理」を加え、同号を同条第四号とし、同条第一号を同条第三号とし、同号の前に次の二号を加える。

- 一 独占禁止政策に関する基本的事項の企画に関すること。
- 二 国会に対する意見の提出に関すること。
- 三 第六條に次の五号を加える。
- 六 不正な取引方法の指定に関すること。
- 七 再販売価格に関する商品の指定に関すること。
- 八 下請代金支払遅延等防止法(昭和三十一年法律第百二十号)の施行に関すること。
- 九 不当景品類及び不当表示防止法(昭和三十一年法律第百三十四号)の施行に関すること(他の所掌に属するものを除く)。

＜参 考＞

特定非常災害の被害者の権利利益の保全等を図るための特別措置法第4条に係る企業年金等関係法令等

厚生年金保険法（公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律附則第5条第1項の規定によりなおその効力を有するものとされた同法第1条の規定による改正前の厚生年金保険法）

条文	義務内容	期日等
第116条 ・厚生年金基金令（※1）第3条、第4条、第42条	厚生年金基金の公告	（設立の場合）4週間以内 （変更の場合）2週間以内 （解散の場合）2週間以内
第174条（第98条第4項の準用）	年金たる給付又は一時金たる給付の受給権を有する者の死亡届出	10日以内
第177条 ・厚生年金基金規則（※2）第56条第1項、第2項	報告書の提出	（業務報告書）毎年3月、6月、9月、12月の翌月15日まで （運用報告書）翌事業年度9月30日まで

※1 公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う経過措置に関する政令第3条第2項の規定によりなおその効力を有するものとされた公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備等に関する政令第1条の規定による廃止前の厚生年金基金令

※2 公的年金制度の健全性及び信頼性の確保のための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う厚生労働省関係省令の整備等及び経過措置に関する省令第17条第1項の規定によりなおその効力を有するものとされた同令第1条の規定による廃止前の厚生年金基金規則

確定給付企業年金法関係

条文	義務内容	期日等
第15条 ・確定給付企業年金法施行令第8条、9条、58条	企業年金基金の公告	（設立の場合）4週間以内 （変更の場合）2週間以内 （解散の場合）2週間以内
第86条	規約型企業年金の規約の失効	30日以内
第99条	受給権者の死亡届出	30日以内

第 100 条第 1 項	報告書の提出	毎事業年度終了後 4 月以内
--------------	--------	----------------

#### 確定拠出年金法

条文	義務内容	期日等
第 16 条第 1 項 ・ 確定拠出年金 法施行規則第 11 条	企業型年金加入者の氏名及び 住所その他の事項の通知	5 日以内
第 47 条	企業型年金の規約の失効	30 日以内
第 50 条 ・ 確定拠出年金 法施行規則第 27 条	報告書の提出	毎事業年度終了後 3 月以内
第 80 条第 3 項、 第 81 条第 3 項、 第 82 条第 2 項、 第 83 条第 2 項 ・ 確定拠出年金 法施行令第 45 条の 2	個人別管理資産の移換	当該企業型年金が終了した日が属 する月の翌月から起算して 6 月以 内
第 92 条第 1 項	運営管理機関の登録事項の変 更の届出	2 週間以内
第 93 条	運営管理機関の廃業等の届出	30 日以内
第 102 条 ・ 確定拠出年金 運営管理機関に 対する命令第 12 条	運営管理機関の業務報告書の 提出	毎事業年度終了後 3 月以内
第 113 条第 1 項	個人型年金加入者又は受給権 者の死亡届出	10 日以内

#### 国民年金法

条文	義務内容	期日等
第 121 条 ・ 国民年金基金 令第 6 条、7 条、 36 条	国民年金基金の公告	(設立の場合) 4 週間以内 (変更の場合) 2 週間以内 (解散の場合) 2 週間以内



<p>第 127 条の 2 ・ 国民年金基金 規則第 8 条第 1 項、第 10 条、第 11 条</p>	<p>加入員の資格の取得・喪失・種 別・氏名・住所の変更</p>	<p>14 日以内</p>
<p>第 138 条(第 105 条第 4 項の準 用) ・ 国民年金基金 規則第 9 条、第 20 条第 1 項</p>	<p>加入員及び基金又は連合会が 支給する年金又は一時金の受 給権者の死亡届出</p>	<p>14 日以内</p>
<p>第 140 条 ・ 国民年金基金 規則第 44 条第 1 項、第 2 項</p>	<p>基金の報告書の提出</p>	<p>(業務報告書) 毎年 3 月、6 月、9 月、12 月の翌月 15 日まで (運用報告書) 翌事業年度 5 月 15 日まで</p>